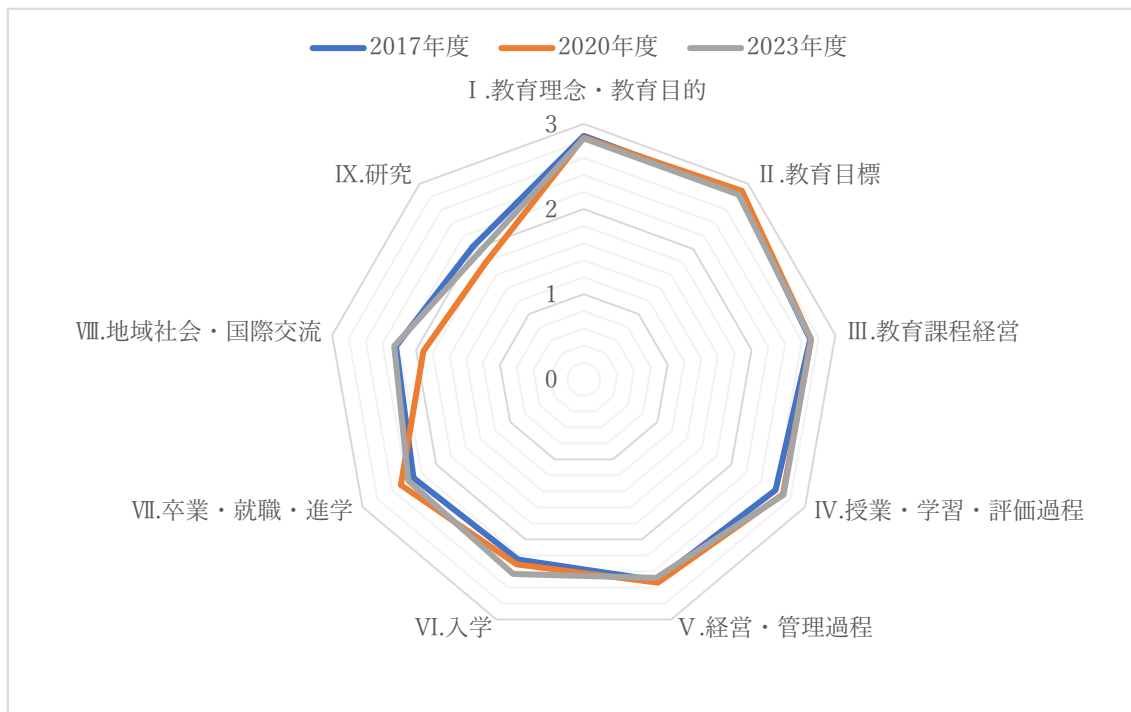


2023年度自己点検・自己評価結果

3段階評価 3.当てはまる 2.やや当てはまる 1.当てはまらない



評価と課題・対策

全体結果について

I～VIについては前回、前々回に比較して大きな変化は認めない。特にI～IVでは2022年度の指定規則改正に伴う教育課程変更内容において、教育目標、教育理念を鑑み適切に構築され実施されているという評価と考える。また新型コロナウイルス感染のような未曾有の状況を経験し、18歳人口の減少に歯止めがかからず入学生確保に苦慮する現状においても、地域医療に貢献できる看護師の育成が、わが校の責務であると感じている。

豊かな人間性を持った看護師の育成のためには、教職員自身が心身ともに健康で豊かな人間性を持つことが望まれる。運営評価向上のため協働かつ自己研鑽し、学生へ良い学習環境と教職員へ良い労働環境を提供できるように努めたい。

I. 教育理念・教育目的 (2.83)

教育理念・教育目的は、社会的責任を反映し明示されている。教職員に周知され指針となっている。学生及び来校者にも理解をしてもらえよう更なる周知を図り、当地域医療へ貢献できる看護師の育成に尽力する。

II. 教育目標 (2.83)

教育理念・教育目的・教育目標は一貫性があり、教職員、学生の目標となっている。

III. 教育課程経営 (2.71)

教育目的・目標に基づいて教科科目設定をしている。それぞれの科目設定の考え方、到達目標、単位認定方法は、教職員・学生に提示されている。2022年の指定規則改正に伴う教育課程変更の際し、社会的ニーズを再確認しつつ教育内容の再構築を行った。2024年度が新カリキュラムの完成年度となるため、教員・学生評価から見直し、検討が行われるべきである。そして変更については十分な周知を行い実践につなげていく。臨地実習でも教員の担当科目は専門性をもって配分され、講師会、臨地実習指導者連絡会議をはじめ、日々、実習施設と連携し実習環境を整え学生の学びが深まるように取り組んでいる。臨地実習の本格実施は2024年となるため多職種との連携・協働などにより一層取り組む。

IV. 授業・学習・評価過程 (2.71)

担当科目について教員は教育三観を明確にし、教育内容の精選、授業形態、伝達方法など工夫している。授業終了毎の理解度確認や、単元終了時には終講アンケートで学生評価を得、各教員にフィードバックし自己評価にも用いている。教員は学生とコミュニケーションをとり学生の要望に応え、学生が放課後などに自己学習できる環境も整えている。コロナ禍の3年でリモート授業も拡大され、学生の学びを止めることなく目標達成への支援ができた。また臨床判断能力の基礎を修得できるようシミュレーション教育を増やし、実践的な学びの充実を図っている。

V. 経営・管理過程 (2.48)

設置主体の「地域に貢献する医療人の育成」という目的は、教育理念、目的に反映し、教職員・学生に理解されている。検討事項は、会議で決定され記録として残されている。個人情報保護及びハラスメント防止に対する規定を策定し教員及び学生にも周知した。3年毎の運営評価に加え、学校関係者評価をまとめホームページに毎年公表しているが平均が2.5を下回り、十分でないという評価を得た。適切な公表時期や内容を検討する必要がある。また移転から6年が経過し、今後備品の故障や不具合が増加することを見越し、財政基盤などについてもオープンにしつつ検討していく。

VI. 入学 (2.43)

入学選抜については、公平に妥当性をもって行われている。これらにかかわるデータは適切に管理され、一部公表もしている。また学生確保のために、社会人入学希望者へのPRや、指定校推薦の基準を見直し対応している。新たな入学希望者の開拓に向け学校訪問や地域の子供向けイベントへの参加、ホームページの整備・更新、ブログの活用などに取り組んでいる。しかし定員割れが継続していることが評価を下げる要因となっている。

VII. 卒業・就職・進学 (2.38)

毎年卒業時の技術到達度評価を実施しその結果は授業や実習に反映されている。卒業生の活動状況について、多くは附属病院へ就職しておりその中で得られる情報を教

育課程の参考にしている。また他病院からの学校訪問を積極的に受け入れ卒後の情報を得る機会としている。しかし活動状況について統計的な整理はできていない。

VIII. 地域社会・国際交流 (2.26)

前回(2020年)評価時はコロナの影響を受け低値(1.91)となっていた。毎年教科外活動、臨地実習、自治会活動を通し、地域のニーズへの対応や情報発信ができるよう計画し2023年度にはオープンキャンパス(看護学生体験含む)や学校祭を再開することができた。これにより今回は前々回(2017年)評価程度に回復を見せている。教育的な貢献としては、和歌山県看護協会の実習指導者講習会に教員を講師として派遣し、2022年には環太平洋大学の教育実習生の受け入れも行った。また地域社会への理解を深め、地域に貢献できる看護師の育成を目指し、学生たちが地域と触れ合うような教育課程を実施している。

国際交流について授業科目としての設定はないが、教育内容として教授している。また今まで帰国学生や留学生の受け入れの実態はないため、手順の見直しを行っているところである。今後も機会を逃さず地域社会への貢献を続けていく。

IX. 研究 (1.93)

教育理念のもと教育目的達成のために、研究的関心をもち、それを追求していく姿勢は重要である。コロナ禍からweb研修などの選択肢が増え学びやすい環境となった。自己研鑽制度や管理者講習など教育実践能力の向上・キャリアアップに自主的に取り組む姿勢を示す必要がある。

上記結果は質問70項目を9のカテゴリに分類した。

2.5以上のカテゴリ

- I. 教育理念・教育課程
- II. 教育目標
- III. 教育課程・経営
- IV. 教授・学習・評価過程

2.5以下のカテゴリ

- V. 経営・管理過程
- VI. 入学
- VII. 卒業・就職・進学
- VIII. 地域社会・国際交流

2.0以下のカテゴリ

- IX. 研究

記載責任者 近藤 広美 2024年3月